

出水の鶴

毎年、10 月中頃からシベリアからの北西の風に乗って多くの鶴が出水に渡って来る。実際に出水に鶴を見に行ってみると、一万羽以上の鶴に圧倒されてしまう。この数の多さは一体何なんだろう？何を表しているのだろうか？あれこれと考え悩んでいた。

そうだ！これはシベリアで亡くなった日本軍捕虜の数ではないのか。

8 月 9 日、突然、満州にソ連軍が侵攻し、その後、多くの日本兵がシベリアに捕虜として抑留された。モスクワには 76 万人分の捕虜の資料があると聞く。ヤルタ会談にて戦後賠償としての役務を行わせることが合意され、スターリンはそれを受けて、50 万人の日本軍捕虜に強制労働を命じた。ソ連政府はそのうちの 4 万 1 千人の死者名簿を作成し、日本側に引き渡していると聞く。一説には抑留者の約 1 割、6 万人が死亡したとの説もある。ソ連政府は日本軍捕虜に対して、ソ連兵と同じ食事、同じ羊の皮で作った寝袋を与えるなど同じ待遇にしたので、虐待ではないとの主張が国際的に認められた。しかしソ連兵は労務の監督者であり、労働は行っていない。食事量が同じでは日本兵の体力が持たないのは明らかである。しかもソ連兵はシベリアの現地人であり、極寒の生活になじんでいる。日本軍捕虜は、マイナス 30 度以下になる極寒のシベリアでの森林伐採や炭鉱作業などの過酷な労働生活で凍傷等に耐えきれない者が続出したことは想像に難くない。抑留者の強制労働で豊富な資源が眠るシベリアの開発が推し進められた。

飄

々

広報委員

石田 健

山口県出身の著名な画家である香月泰男氏もシベリア抑留の体験を綴っている。「私は必ず生き延びてやろうと思った。私は生きることに貧欲だった。生きるためには妥協もした。スターリンへの忠誠を競い合い、ゴマもすった。争いもした。」生き延びて日本に帰国しても、過酷な状況に置かれ、日本の土を踏むこともなくシベリアの土となった戦友の貌が浮かんで来ると語られている。香月氏の絵画には不戦の強い想いが塗り込められている。

ソ連崩壊後にロシア政府のエリツィン大統領（当時）は非人間的行為として謝罪の意を表している。

遺骨収集事業に関して、DNA 鑑定により 2010 年までに 826 名の身元が特定されているが、遺族に引き渡されていないと聞く。シベリアの地を訪れる人もなく、シベリアで無念の死を遂げ、眠る人々の遺骨の収集は進んでいない。

あれこれ思いを巡らせていると、いくら魂が軽いと言ってもすべての魂を極寒のシベリアから暖かい鹿児島に運んで来るには、一万羽以上の鶴でないと無理なことに想いが馳せた。その瞬間、「シベリアの御霊帰り来 鶴に乗り」の句がひらめいた。

この句が新聞に載った。それを読まれた老婦人が突然、大粒の涙を流された。ビックリしてその理由をお聞きした。「私の兄はシベリアで戦死し、今も永久凍土の中に埋葬されていると聞いています。何とかシベリアに行って、お骨だけでも日本へ持ち帰りたいとの願いはありますが、非力なた

めにこの数十年間何も出来ず申し訳ないと思っていました。でも、鶴が極寒のシベリアから暖かい出水に兄の魂を毎年運んでくれていることに気づき、うれし涙が出ました。」と仰った。

このようなすばらしい俳句の読み手に会えて、私もうれしく、また、感動を分けてもらった。

香月氏の作品は抑留死した戦友の思いを絵筆に託し、その絵には不戦の強い思いが込められている。

私もこの句で偶然にも俳句を通じて平和への思いが表現できたことに驚き、これからも表現できるようになればと思っている。

日医 FAX ニュース

2017 年（平成 29 年）10 月 27 日 2649 号

- 第 48 回衆議院議員選挙の結果を受けて
- 診療報酬「2%半ば以上」マイナスを
- 価格引き上げへの懸念が再燃

2017 年（平成 29 年）10 月 24 日 2648 号

- 「適正処方の手引き」を作成
- 「小児在宅ケア担当理事連絡協」を開催
- 補助率削減見直しと高額薬引き下げを
- 風しん特定感染症予防指針改定を了承
- 咽頭結膜熱、過去 5 年で「かなり多い」
- 定点当たりインフル報告数、微減で 0.17

2017 年（平成 29 年）10 月 20 日 2647 号

- 「通院・精神療法」の評価見直しで議論
- 小児在宅ケア、地域医師会が連携を
- 「ジュネーブ宣言」改訂版を採択
- レセソフト「ORCA」をクラウド化

2017 年（平成 29 年）10 月 17 日 2646 号

- 横倉会長が第 68 代世界医師会長に就任
- 「科学的介護」に向けエビデンス収集へ
- ロボット技術活用、介護業務支援追加
- 一般病院の経常利益率 0.7%に減少
- 医業収支差額の総数平均悪化
- 定点当たりインフル報告数、横ばい

2017 年（平成 29 年）10 月 13 日 2645 号

- 多職種連携「顔の見える関係が重要」
- 「妊産婦の外来管理評価」新設へ
- 「物から人へ」「財源論」など求める声
- 都道府県に「医師確保計画」

2017 年（平成 29 年）10 月 6 日 2644 号

- 重点課題に地域包括ケアシステム構築
- 医療用麻薬 30 日延長案、診療側は慎重論
- 回復期「大幅不足の状況にない」
- 遠隔診療、活用推進には実態把握を

2017 年（平成 29 年）10 月 3 日 2643 号

- 普及・啓発資料を作成、11 都道府県など
- 企業に資金提供の公表義務付け
- 衆院解散、厚労省提出法案 4 本が廃案に
- 消費税増税分の使途「しっかり説明」
- 「震災」特例措置、18 年 3 月末まで延長
- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、連続増加

2017 年（平成 29 年）9 月 29 日 2642 号

- 世代型社会保障「社会の安定に寄与」
- 介護人材の処遇改善をさらに推進
- ムンプスワクチン、積極的な接種を
- 日本脳炎ワクチン不足で緊急措置へ
- 事務作業補助加算の要件緩和に意欲